

これがオススメ! 読み聞かせ本

高学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんの本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

この本の「題」は道徳的には「？」と思うに違いありません。また「お笑い系かな？」とも。しかしこの本は奥が深いのです。「人生訓」と言ってもいいかもしれません。「頭が柔軟」な今のうちに読み語りしたい内容です。

現代は、人の生き方は千差万別、「みんな違ってみんないい」の時代です。しかし、世の中にはいろいろな「ウン」が秘められています。この本は、それとどう付き合っていくかと考え始める年代の子どもたちにぴったりの本です。作者の丘修三さんの本はこれまでも読み語りしたことがあり、子どもの心に寄り添う物語が多いことから、信頼感もありました。

以下は、読み語りの感想です。
A・・大人たちは子どもに「ウンつきは泥棒の始まり」と言ってウンをつかないようにさせているけど、大人もウンをついてい

て、矛盾している。

B・・この本はとてもおもしろかったです。でもやっぱりウンは悪いと思いました。しかし人には、ついでいいウンと、悪いウンがあると知りました。勉強になりました。
C・・お母さんがお父さんについてたウンに、ばれるんじゃないかとハラハラしました。
D・・バブちゃん（大人がおかまと言ってきらっている）が住んでいる家から引越さなくてはいいなくなり、みんなにウンをついて消えてしまったのがかわいそうだと思いました。

E・・バブちゃんが子どもたちと別れる時のウンが印象に残っている。
F・・最後にバブちゃんがウンをついていたけどいいウンを考えたなと思いい心に残りました。

これからの複雑な人生を少し垣間見られたような本でした。



ウソがいっぱい

丘修三／作・ささめやゆき／画
(くもん出版)